

## ナノ磁性ビーズを用いた 医薬品、天然物質等が直接結合するタンパク質の同定



講師（学内）  
飯泉 陽介

### ① 共同研究・産学連携への意気込み

様々な医薬品や天然物質、幅広い疾患領域に適用できます。

### ② 想定される連携先・移転先

これまでに本技術を用いた共同研究を、京都大学、富山大学、産業医科大学、国立がん研究センター、本学の消化器内科学、泌尿器外科学などに行ってきました。

## キーワード

ケミカルバイオロジー、ナノ磁性ビーズ、結合タンパク質、化合物、作用機序

## 研究内容

ナノ磁性ビーズを用いると、右図のように化合物（医薬品、天然物質など）が直接結合するタンパク質を質量分析計を用いて同定できます。それにより、化合物の薬効発現に関する詳細な作用機序を解明できます。また、同定した結合タンパク質が新規の創薬標的タンパク質である可能性もあります。さらには、同定した結合タンパク質の機能解析により、疾患を制御する新規分子メカニズムを発見できる可能性もあります。

